



僕は1982年にボルルールから3キロ離れた山奥で生まれ、7歳の時、父が農業での重労働のせいで病気になり、通院しやすいように、ボルルールへ引越しました。

1990年小学校に入学しました。学校ではできる方ではなく、勉強するのは大変でした。父は小学校を卒業していますが、母は学校へ行ったことがなく、農業しかできず、父が働けなくなったので、経済的に大変でした。僕は学校へ行きながら、時には学校を休んで、農家の仕事を手伝ってお金をもらいました。朝食なしで学校へ行き、お昼休みに帰ってきても、食物が無い時もありました。あっても、バナナ一本かキャッサバ(いも)一個食べて、午後の授業を受けるため戻りました。母は農家の手伝いをして、一日50ペソか、お米

2kg をもらってきました。時にはココナツの木に登って、実を取り、ココナツのお酒を作って売りました。売るのは僕の役目で恥ずかしく思った時もありますが、食糧と学費のために、売りに行きました。兄は小学校卒業後、進学せず母を助けました。

5年終了時、父から学費を払えないから学校を辞めるように言われました。級友と一緒に卒業できないと思うと、悲しくて泣きました。でもお金がないのですから仕方ありません。母と兄と僕の3人は別の村の従兄弟の家に移り住んで、近所の農家で働きました。辛い仕事でしたが、来年の学費のためと我慢しました。復学できないのではないかと、落ち込む時もありましたが、希望をもち続けました。

1年後校長先生のお陰で、勤労学生として6年生に復学しました。学費は免除してもらえましたが、その他の費用は払わなければならず、時には先生の所へ薪をもって行って、必要経費にしてもらうこともありました。ゴムズリを買うお金がなく裸足で学校へ行かなければならない時もありました。制服のズボンと白いシャツは一着のみで、学校から戻るとすぐ洗濯して、翌日着ていきました。

上から3番目の成績で卒業しました。奨学金試験にクラスで16名受験して3名の合格者の一人になり、毎月200ペソが高校での学費にあてられることになりました。困難を克服して卒業できたと同時に嬉しいことでした。卒業式には従兄弟から借りた服を着ていきました。

ハイスクール3年の時、級長に選ばれ、4年の時、クラス分けで一番できるクラスに入りました。級友は、頭が良く、裕福な家庭に育っているの、僕のように早朝掃除当番もなく、かなわないと思いましたが、負けないよう頑張りました。苦しい日々が報われ、ようやく卒業式を迎えることができました。僕の家族は卒業を祝ってくれるお金がなく、ちょっぴり悲しい思いもしましたが、寮では祝ってもらいました。

父は長年病気で、家の中でバーベキューの竹の串を作ってわずかでも収入を得ていますが、母も年をとって前ほど仕事ができなくなり、カレッジに行くことなど夢でしたが、HANDSのおかげで、カレッジに進学することができました。今MSU(ミンダナオ国立大学)の3年で農業を専攻しています。卒業後はCMBで仕事をしたいと希望していますが、無理なら、実家の2.5haある農地で、カレッジで学んだことを活かし、収入が得られるようにしたいと思っています。

僕には5人の兄弟と2人の妹がいます。一番上の兄は17歳の時、仕事でカラバオに乗っていた時、カラバオが転び、引きずられて死にました。2番目の兄は小学校を卒業後、働き続けています。僕のすぐ下の妹は16歳の時、ハイスクール1年の途中で退学して結婚し、女の子が一人います。その下の弟は17歳ですが今小学校3年です。その下の弟は小学校卒業後一年働き今ハイスクール1年です。その下の妹は学齢期に達した時入学し、そのまま勉強を続けることができ、10歳で小学4年です。一番下の弟は2歳です。

様々な困難がありましたが、HANDSのお陰で、奨学金を得、会員の皆様の暖かいお志を励みに勉強を続けられることに感謝しています。本当にどうもありがとうございます。